

第41回公共事業評価委員会 議事要旨

- **開催日時** 令和元年12月16日(月) 15時30分～16時50分
- **場 所** 福島市役所 4階 第二応接室
- **出席委員** 6人
川崎 興太(福島大学共生システム理工学類 准教授)
市岡 綾子(日本大学工学部建築学科 専任講師)
渋谷 順子(福島商工会議所 議員)
菅野 稔子(福島県建築士会福島支部 常任理事)
佐々木 崇(ファイナンシャルプランナー(福島信用金庫))
渡辺 明美(ウイメンズ イノベーションカレッジ イン ふくしま 修了生)
- **事務局** 政策調整部長、同部次長、政策調整課長、総合計画係長、同係員
- **担当課** 商工観光部次長兼道の駅整備室長、施設整備係長、機能整備係長
こども未来部こども政策課長、子育て支援係長、同係員

- **会議次第**
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 説 明
 - (1) 福島市公共事業評価委員会について
 - 4 委員長及び職務代理者の選出
 - 5 議 題
 - (1) 評価対象事業の審議について
 - (2) その他
 - 6 閉 会

議事要旨

(1) 評価対象事業の審議について

①地域振興施設「道の駅」整備事業

担当課より資料に基づき説明、以下は質疑の内容。

- Q 1. 高速道路利用者の利便性向上のため、高速道路から直接入れるようにできないのか。
A 1. 高速道路から直接道の駅に入ることができないかについて公安委員会と協議したが、困難との回答があった。
- Q 2. こども遊び場に来る子ども連れの方が利用する駐車場の近くを大型車両が通行する計画となっているが、安全性は確保されるのか。
A 2. 安全性に配慮しながら運営していきたいと考えている。
- Q 3. 荷捌きスペースはどのように考えているか。
A 3. バックヤードを道の駅本体の事務室西側に用意している。
- Q 4. ドックランへの動線はどこか。
A 4. 道の駅本体とこども遊び場の間から多目的広場を経由する動線と、道の駅本体東側から南側に回り込むように向かう動線の2つである。
- Q 5. 福島大笹生 I C ループ内の道の駅用地南側はどうなる予定なのか。多目的広場等からの景観的な観点から確認したい。
A 5. 工業団地の工場用地として造成しており、造成完了後、企業誘致する予定である。なるべく誘致する際に、工場の建物を低くしたり、南側に配置させ、広がりを見せるなどの手法を誘致担当へ依頼していきたい。
- Q 6. 費用対効果分析の周辺地域にもたらず直接消費額を年間6千万円と試算した根拠は何か。
A 6. 他市の道の駅の事例を参考に試算した。
- Q 7. 費用便益比(B/C)が1.22ということであるが、近隣道の駅と比較してどうなのか。
A 7. 近隣道の駅の費用便益比が確認できなかったことから比較をしていないが、地域産品等の販売等による経済波及効果が事業実施に係るコストを上回る試算結果となった。
- Q 8. こども遊び場について、中心市街地から離れたところに整備することになるが、整備目的や対象年齢は。また、どのような施設になるのか。
A 8. 市民会館にある「さんどパーク」の後継施設と考えており、面積は現在のさんどパークよりも一回り広くする計画。市内の幼稚園・保育所の保護者や先生との意見交換会で「どこにでもある大型遊具ではなく、市独自の施設として欲しい」との意見をいただいております。親子で遊べる遊具を設置した施設を検討している。対象年齢は0歳児から小学校高学年くらいまでを想定している。
- Q 9. こども遊び場について実施した市民アンケートの対象は。
A 9. さんどパーク利用者や公立・私立の幼稚園・保育所を利用している園児の保護者、

放課後児童クラブを利用している児童の保護者を対象に1,876人にアンケート送付。回答数は929件で回答率は49.5%であった。なお、さんどパークにはアンケートを備え付けた。

Q10. 未就学の子どもが遊べる屋内施設はあるが、小学生が遊べる施設は少ない。冬場でも小学生が汗をかいて遊べるような施設にして欲しい。

A10. 検討する。

Q11. 未就学児も小学生も利用できて、回遊性があり親子で遊べる施設が他市にある。参考にしてはどうか。

A11. さんどパークは年間5万人の利用者がいる。意見を踏まえ誘客を図り、それ以上の施設となるよう検討する。

Q12. こども遊び場が建物本体と独立しているため、雨でも濡れないで移動できる通路が必要ではないか。建物を集約するなど効率良く中で移動できるようにしたほうが良い。

A12. 屋根付きの渡り廊下を設置し、一体的な利用を図る予定である。

Q13. こども遊び場と多目的広場を分断しないで外から中が見えるなどつながりがあるものにしたほうが良い。さんどパークの後継施設として大笹生まで何度も足を運んでもらえるような施設整備をお願いしたい。

A13. 検討する。

Q14. こども遊び場について、中心市街地にあるのとは違い、土日以外に多くの利用者が来るイメージができない。市民が1日過ごせるような場所とする必要があるのではないか。

A14. アンケートの結果から、さんどパーク利用者の94%は自家用車で来館しているということが判明している。今後、広報・PRに力を入れ、平日も使ってもらえる施設となるよう検討していく。

Q15. おむつ台や授乳室なども利用者が良かったと感じるものにして欲しい。

A15. 道の駅本体内だけでなく、こども遊び場にも子供用トイレやおむつ台などを整備し、施設内で完結できるよう検討する。

Q16. 年間運営費が7.4億円と想定されており、採算ベースで運営できる仕組みづくりを検討すべきではないか。

A16. こども遊び場の有料化も視野に入れて検討している。

Q17. 自動販売機を設置するなど収益を上げる方法の検討も必要ではないか。ドックランは有料なのか。

A17. ドックランの有料化については検討するが、有料とする場合、それ相応の施設整備が必要となってくる。

Q18. ドックランを整備する理由は何か。

A18. 整備計画策定委員会において、ドックラン整備の意見を踏まえ、整備することとした。

Q19. 指定管理者制度を導入する予定とあるが、道の駅とこども遊び場を同一の管理者とするのか。

A19. 検討中である。現段階では、相乗効果が図れるよう一体的な管理運営が望ましい

と考えている。

Q20. 道の駅は市のイメージや特徴を打ち出すような施設にする考えなのか。

A20. 福島市だけでなく、県都福島として復興のシンボルとなるような、もしくは県北圏域を含めて福島を代表する施設にしていきたい。

Q21. 評価指標の来場者数は控え目に算出したのか。

A21. 一定の根拠が必要と考え、前面道路の交通量と立寄り率から算出している。

(審議のまとめ)

市の対応方針(案)のとおり、新規着手を認める。なお、屋内こども遊び場については、道の駅本体や多目的広場等と一体的に利用でき、相乗効果が発揮されるような工夫をしてもらいたい、という付帯意見をつけることでまとめたいと考えるがいかがか。

(「異議なし」の声)

新規着手について認める市に対する意見具申については、私、委員長一任で進めさせていただいてよろしいか。

(「異議なし」の声)

(2) その他

事務局より以下の説明

- ・本日の審議結果を受け、福島市公共事業評価実施要綱に基づいて市の対応方針を速やかに決定する。
- ・本委員会の評価結果と対応方針、議事要旨については、市のホームページにより公表する。